

図書館サポーターズだより

2016 明日に吹く風



冬もいよいよ本番！雪が降るような寒い日は、犬のように外を走り回るのも良しですが、猫のように、こたつで丸くなり本を読んでいるのはいかがでしょう？今年も図書館サポーターがオススメの本をご紹介します。

～図書館サポーター推薦図書～



『図書館戦争』：有川 浩 著 (913.6||A71)

この本は、図書を奪う良化特務機関から図書館の自由をまもるために活動する図書隊の姿を描いた作品です。主人公の笠原郁が高校生の秋、良化特務機関による検閲に遭遇し、買おうと思っていた本を良化隊に取り上げられそうになった時、図書隊員が守ってくれました。この事がきっかけで「理不尽な検閲から本を守りたい」という思いを胸に図書隊員として堂上教官のもとで日々の厳しい訓練、困難を乗り越えながら仲間とともに成長していくストーリーです。また厳しい・恐いとばかり思っていた堂上教官が時にみせるやさしさ、たくましさ、惹かれ自然と憧れの存在となっていく。図書館戦争は映画化もされた人気作品です。映画では分らなかった細かな場面が描写されており、映画をみた方でも楽しんで読める一冊だと思います。興味のある方はぜひ読んでみてください。

(Y・T)

『脳を活かす仕事術:「わかる」を「できる」に変える』：茂木 健一郎 著 (491.371||Mo16)

この「脳を活かす仕事術」では、どのように自分の中に良いものをインプットしていくか、また自分の中にあるものをいかに早くアウトプットするか、そしてその二つのバランスをどうとっていくのかについて書かれています。「仕事術」と聞くと大それて聞こえるかもしれませんが、インプットとアウトプットと言えばレポートにも当てはまる話。他人事ではありません。こういったぼんやりと分かっているようで、でもハッキリとは言えない「コツ」のようなものを言語化してくれる存在はありがたいもの。しかも茂木さんの文章は脳科学者のものとは思えないほど分かりやすく面白く、理論は飛ばして、体験談や事例だけを読んでみても引き込まれます。

これから切実にレポート提出に追われるこの時期のお供に、もしくは息抜きの娯楽としてもオススメの一冊です。

(Y・S)

『境遇』：湊 かなえ 著 (913.6||Mi39)

この作品の主人公である高倉陽子は政治家の妻。絵本作家としても活躍する彼女は5歳になる息子のために描いた絵本「あおぞらリボン」がベストセラーになり、一躍話題の人物となります。一方、この物語のもう一人の主人公ともいえる相田晴美は、新聞記者として忙しい毎日を送っています。2人はともに幼い頃親に捨てられ児童養護施設で育った過去を持っています。施設でのイベントで偶然出会った2人は、同じ境遇を持つ者同士として心を通わせるうち親友になりました。ある日、「息子を返してほしければ、真実を公表しろ」という脅迫状とともに、陽子の息子祐太が誘拐されました。公表しなければいけない「真実」とは一体何なのか。そして犯人は…。朝日放送の創立 60 周年を記念して湊かなえがドラマのために書き下ろした小説ですが、ドラマ版は原作と結末が少し異なるので両方愉しめる作品です。

(M・M)

* 図書はメインカウンター脇にあります。ご利用ください。